

# 運動を振り返って



小川 次郎  
Ogawa Jiro

日本工業大学  
工学部 建築学科教授

日本工業大学百年記念館/  
ライブラリー&コミュニケーションセンターで日本建築学会作品  
選奨 (2010) を受賞

## まちづくりにゴールはない

「まちづくりにゴールはない。考え続け、つくり続けることに意義がある。」あたりまえの話であるが、7年間の活動を振り返って、あらためてそう感じている。まちに住む人びとの成長に歩みを合わせるように、まちも成長を続けるのだと思う。その過程で、不具合や不都合が生じたら手を入れてゆく、人びとの暮らしぶりや意識が変化し、新たなものが必要になったら付け加えてゆく。そして、まちに暮らす市民や行政がそのことに取り組むのはもちろん、少し違った立場や視点をもつ様々な人びと - 例えば大学の学生や先生など - をそこに巻き込むことで、まちの豊かさはさらに厚みを増してゆくのではないか。私たち連携5大学研究室も、これまで具体的な建築プロジェクトから制度設計まで、いろいろなかたちで八潮のまちづくりに関わらせて頂いた。21世紀のまちづくりを見据えて、こうした仕組みを丁寧に作り上げ、継続されてきた（これは全国的に見ても胸を張れる、画期的な試みだと思う）八潮のみならず、心より敬意を表したい。

## ヤシオ・サポーターとして

個人的にも、この7年の間というもの、実によく八潮に通わせて頂いた。もちろん、市民のみならずとのワークショップやいろいろなお祭りへの参加、役所との打合せなど、その時々の手事もあったのだが、そのことを別にしても八潮には何か惹きつけられるものがあつた。水や緑が多いことによる独特の開放感？人びとのゆたかりとした雰囲気？緑地や農地、住宅、工場など様々な表情をもった街並み？多分、そうしたものをすべてがブレンドされた心地良いゆるやかさが、「八潮らしさ」につながっているのだと思う。こんな楽しさに満ちたまちの姿を、市民のみならずだけでなくあらゆる人びとに伝え、届ける運動をこれからもずっと続けて頂きたいと、ヤシオ・サポーターの1人として切に願っている。



坂牛 卓  
Sakaushi Taku

東京理科大学  
工学部 建築学科教授

建築設計事務所 O.F.D.A.associates を共同設立 (1988)  
リーテム東京工場 international architectural award2007 / 角窓の家 日本建築家協会優秀建築選 (2007) など受賞

## 遠そうで近い場所

八潮に最初に来たのはだいぶ前のことである。市役所に案内されて市長の町づくりへの心意気を拝聴した。市役所の上階にある部屋から外を見ると平らな町が広がっていた。ああだいぶ遠くに来たなと感じた。都心のビルの狭間に暮らして10年以上もたつので平らな大地は妙に遠方を感じられた。しかしその後幾度となく通い、自転車で街歩きをしてみるとどうもこれは懐かしい場所だと感じるようになってきた。そもそも自分が生まれ育った東京の練馬区は大根の産地として有名で、23区の中では畑がたくさんあつた。誰の所有地かわからないような空き地がたくさんあり格好の遊び場となっていた。どうも八潮はそんな自分の育った記憶の中の一部が再現されているように見えてきた。遠く思えた風景は記憶の中のすぐそこにあつたというわけである。

## 皆で考える楽しさ

八潮に最初に来たとき自分はまだ教師になって数年目であつた。学生を教えるのにやっとな頃で学生と一緒に何かを作るなどという状態ではなかった。ところがここで我々は学生とも他大学の先生とも価値観を共有させながらもの作りを始めたのである。これはなかなか勇敢な試みであつたと思う。一体どこまでうまくいくのだろうかと疑心暗鬼だつたのだが、これが様々な良い結果を生み出していった。皆で考えることはとすると妥協の産物になるのだが、ここでは多くのことがプラスに働き質の高いたくさんの案を生み出した。それらは学生の力量を示すと同時に指導する先生方の知恵の発露でもあつた。そんな案を厳選して市民の意見も交えながら行う町づくりはそうそうできるものではない。これが可能となつたのは5つの大学が集結したからで、もう一つは長く続けてきたからである。この貴重な関わりをさらに継続して（できれば100年）いければと願っている。



曽我部 昌史  
Sogabe Masashi

神奈川大学  
工学部 建築学科教授

建築設計事務所「みかんぐみ」を共同設立 (1995)  
住宅、保育園、ライブハウスの建築設計から家具、プロダクト、インсталレーションまで幅広いデザインを手がける。

## ネガティブな要素は本当にネガティブか？

風景に人工的な印象を加える鉄塔の列、匂いが気になる水路網、機械音が漏れ出す町工場群。八潮の風景の特徴であるこれらの要素は、多くの場合、景観や暮らしやすさを損なうネガティブな要素として捉えられやすい。デザインの現場では、鉄塔から目をそらし、水路を暗渠化し、町工場から距離をおくような対応が選ばれる。八潮での私たちの試みは、そういったスタンスとは正反対である。つまり、鉄塔をランドマークとして位置づけ、豊かな景観の一部としての水路を取り戻し、町工場の活力を取り込むような住宅地を構想した。こういったスタンスは、この先のまちづくりで特に重要なのではないかと思う。常識と位置づけられている評価軸をいったん棚上げにして、その地域の持つ特性をポジティブに活かす方法を考える。そうすることで、どこにでもある同じような雰囲気のある街ではなく、その地域特有の魅力をつくりだすことが可能になるのではないだろうか。

## 創発を生む協同

5大学の学生たちが協同して検討を進めることが、このプロジェクトの個性を生む。混成チームをつくり協同で一つの提案をまとめることもあれば、各大学がそれぞれの案をもちよりアイデアを競わせることもある。協同の仕組みにも工夫を重ねられる。T邸の設計においては、南面に対する考え方が提案されたことで外形が大きく変わり、結果として特徴的な外観を得ることとなった。また、学生たちのセルフビルドによる家具や庭や茶室や露地のデザインでは、不思議な競演が予想を超えたアイデアの集積を得た。大学毎に担当部位を分けて検討をしていたのだが、互いのデザインに意識を向けながら、それぞれの独創性を発揮しようとする結果だろう。いつものやり方では、この先の建築設計の可能性を矮小化してしまうに違いない。協同の仕組み次第では、新たな創発的デザイン環境が得られるのである。



槻橋 修

Tsukihashi Osamu

神戸大学

工学研究科建築学専攻准教授

ティーハウス建築設計事務所を設立(2002)  
「建築ノート」など数多くの建築に関する書籍を監修。



寺内 美紀子

Terauchi Mikiko

信州大学

工学部建築学科准教授

寺内美紀子建築設計事務所(2003~2005)  
人人ニュータウンひたち野中央「脱・都会派の夢」くらしと住まいのコンクール優秀賞を受賞(2001)



渡 和 由

Watari Kazuyoshi

筑波大学

環境デザイン領域准教授

1990年に渡米、米国のランドスケープ・アーキテクチャと建設設計事務所にて米国の都市や住宅地の計画実務を行う。  
98年に帰国後、現職に。

## 大きな変化の中で

八潮に通い始めてからの7年間、街は来るたびに变化していた。そもそもこの運動が始まった経緯がつくばエクスプレス開通により八潮に初めて駅ができ、駅前が誕生したことにあるのだから当然とも言えるが、八潮にとって大変貴重な時期に学生達と通わせていただいたことになる。ピカピカのTXに乗って八潮駅から八潮に入り、先生方や学生達と自転車に乗って町中を走りまわって出会ったのは、八潮に流れる時間が醸成させてきた伸びやかな郊外都市の風景だった。細い路地の入り組んだマスクメロン街区や、町工場が並ぶ光景、人々の水との格闘の記憶を感じさせる水路や河川敷は、そして可愛らしい小松菜畑は、どれも大都会の真ん中では得られないホッと空間だった。どんどん便利に、けれども画一的になっていく日本の街の中で、八潮の空間の美しさにみんなが気づくようになる日は遠くないと思う。その日まで、八潮はTX沿線における「懐かしい場所」であってほしい。

## スローなまちづくり

こうした八潮の魅力に誘われて、5大学連携の活動も自由な空気の中で活動させていただいた。毎年、八潮の魅力について大学間で意見を出し合い、市民の皆さんと家づくりに挑戦したり、公園づくりに取り組んだり、活動当初では想定できなかったような創造的なまちづくりの方法を学ばせていただいた。駅前を中心に進んでいる急速な変化を八潮全体で柔軟に受け止めながら、この街が昔から身につけてきた「八潮のペース」に巻き込んでいく。みんなにとって住みやすい街にするために、一刻も早く取り組むべき課題も少なくないだろう。しかし人々が愛着を持てる街並みの創造に関しては、短期間の成果にばかりこだわるのではない、長期熟成のスローなまちづくりこそ「八潮らしいまちづくり」なのだと思う。その意味で1000年運動の「1000年」は伊達じゃない、とあらためて感じている。

## 八潮とはどこか

東京を直交座標の4象限に区切ると、第1象限に江戸がすっぽり入ってしまう。住宅地である山の手は西に、下町の職人街や様々な手工業は北に伸びていった。結果、北に位置する八潮のような水運に恵まれた地域は、江戸時代からあらゆる物資を都心に供給する街となった。つくばTXにより、今度は、のんびりとした緑の多い暮らしを供給している。八潮とは与えることの尽きない豊かな場所なのだと思う。こうした豊かな郊外によって都心は成り立っているのだと、八潮に来るようになって、今更実感した。一方、八潮のなかで八潮をどのように見いだせばよいのか、これはなかなか一筋縄ではいかない問題であった。おかげさな言い方が、近代以降の発展と衰退のなかで、日本人の生活や家族の変様がそのまま刻まれてきたかのような都市空間が、八潮にはあると感じた。八潮のような街はめつたにないという感覚と、日本のいたるところに八潮はあるという感覚の共存である。この2つの感覚を往き来しながら、少しずつ八潮に詳しくなることができた。

## 八潮の感性

7年間にわたって、市民フォーラムやワークショップに参加し、連携大学の先生、研究室のみなさんと協同でき本当に楽しかった。初めの4年間は土木系の学科に在籍していたこともあり、土木構築物に着目するのに八潮はうってつけのフィールドで、学生もやりやすかったと思う。高架下や河川敷と田園のスケールが絶妙に？マッチし、住宅スクールでもこうした八潮の特徴がモチーフになった。地元の製作所や工場にもご協力頂き、実際に色々なものをつくられたことは大きな成果と自負している。地元のみなさんの持つ、たくましさやユーモアに支えて頂いたからこそ実現できたプロジェクトばかりであった。こうした八潮の感性に心から感謝している。

## 八潮のまちを、エクスプローラー

私達、筑波大学では、芸術専門学群と大学院生が協働して実践的な演習を行う「筑波大学アート・デザイン・プロデュース(ADP)」として、自治体や大学で様々な提案や活動をする取り組みを行っている。八潮においては、平成22年から平成24年の3年間、ADPの一環で「八潮エクスプローラー(八潮探検隊)」として参加した。活動全体を振り返ると、1年目に基礎的な視点を得る活動として、まちを歩いて、座って環境資源を確認する「八潮パブリックピクニック」や、伝統産業と地域資源を身につける提案である「八潮アロハ」、農業や公衆トイレの可能性を探る提案の活動を行った。2年目は、環境と歴史的な資源をデザインした「地域のクールビズポロシャツ」、写真による地域資源の視覚化と市民参加を目指した「鉄塔鉄美写真コンテスト」、その成果と活動過程をまとめた冊子「八潮 photo」として発展させた。3年目は、市役所の若手職員も参加したポロシャツ製作、まちの資源をキャラクター化した「まち缶バッジ」、夏の風景を撮る鉄塔写真コンテスト、下妻街道を自転車で旅する「八潮発下妻街道の旅」などを行った。

## 八潮での活動を活かして

このように、八潮エクスプローラーでの3年間の活動は、小さな発想から、市民の方々、子供達、様々な方々が楽しく参加できること、みんなが笑顔になることの手助けができたと思う。今でも、いろいろな楽しい活動が街中で起こっている場面が浮かんでくる。私達は八潮を離れたが、八潮から下妻まで自転車で走った経験を活かして、霞が浦やつくば市での自転車を活かす活動を行っている。八潮街並づくり1000年運動の成果が、まちの体験価値をみつめて、市民で共有する今後の市民活動のヒントになると幸いである。

# 7年間の活動参加者

## 平成 20 年度

**茨城大学 (寺内)**  
上田 学  
立原 稔  
鈴木 寛  
窪谷 浩  
田原 浩  
戸島 佑  
廣瀬 介  
宮崎 之  
宮崎 文

**神奈川大学 (曾我部)**  
豊田 久美子  
平野 宜昭  
水野 清隆  
山本 昌弘  
石川 朝海  
小金丸 信光  
小畑 中

**信州大学 (坂牛)**  
兼子 晋  
平岩 宏  
小倉 和洋  
日向 由香  
小宮 真紗  
尾川 翔  
香川 勲  
高木 帆  
田中 幸  
藤岡 佑介

**東北工業大学 (槻橋)**  
小原 淳  
武田 千博  
留場 宣  
福島 直  
森谷 哲

**日本工業大学 (小川)**  
高桑 広太郎  
木村 優子  
松下 和弘  
谷中 穂平  
藤谷 宣也  
佐富 元祐  
飯野 旭  
江利川 豊  
小山内 哉  
大橋 雅

## 平成 21 年度

**茨城大学 (寺内)**  
鈴木 寛  
窪谷 浩  
戸島 佑  
廣瀬 介  
宮崎 之  
宮崎 文

**神奈川大学 (曾我部)**  
水野 清隆  
山本 昌弘  
小金丸 信光  
小畑 中  
中村 啓介  
中下 和香  
木下 保真  
佐々木 美

**信州大学 (坂牛)**  
倉森 和洋  
小竹 恒平  
田中 邦幸  
藤岡 佑介  
朝日 大  
西浦 林 皓

**東北工業大学 (槻橋)**  
福島 直  
藤林 聡  
小林 知博  
中村 大樹  
高橋 行廣

**日本工業大学 (小川)**  
高桑 広太郎  
佐藤 洋  
富谷 宣也  
松野 元祐  
村口 由  
田山 祥  
岡田 誠  
木梨 賢  
小林 登  
村高 章  
高橋 敦  
早川 史  
平井 剛  
井義剛

## 平成 22 年度

**茨城大学 (寺内)**  
戸島 建  
廣瀬 貴  
大友 文  
川友 彰  
千樞 昌  
佐友 紀  
関根 拓  
守直 朗

**神奈川大学 (曾我部)**  
木下 和  
宮脇 之  
宮西 夏  
早浦 亮  
古川 政  
源真 敏  
希真 希

**信州大学 (坂牛)**  
田中 邦  
朝日 幸  
西浦 大  
林植 皓  
植松 和

**神戸大学 (槻橋)**  
薰岡 静  
片岡 大  
坂本 起  
友貴 憲  
村岡 知  
徳早 貴  
川原 世  
三浦 智  
押谷 幹  
山田 尚

**日本工業大学 (小川)**  
高桑 広太郎  
富野 宣也  
村口 由  
山梨 誠  
小橋 賢  
高橋 敦  
安藤 聖  
伊藤 惇  
岡崎 和  
今高 昌  
高橋 文  
浦井 典  
安藤 登  
伊藤 聖  
田沼 惇  
土野 大  
廣皆 勇  
武藤 龍  
藤和 将

## 平成 23 年度

**茨城大学 (寺内)**  
大友 彰  
川井 樹  
千樞 紀  
榎場 子  
守直 朗  
大河 慶  
野根 子  
山本 匠  
山本 雄馬

**神奈川大学 (曾我部)**  
井土 稔  
立川 愛  
田村 雅  
源真 希  
井望 央  
菊望 諭

**東京理科大学 (坂牛)**  
飯田 侑  
石原 希  
河添 寛  
堀江 優  
田山 太  
山田 芽

**神戸大学 (槻橋)**  
岡崎 大  
岡本 起  
友貴 世  
村岡 智  
徳早 幹  
川原 樹  
三浦 直  
押谷 昌  
山田 良  
秋田 平  
小川 介  
小川 紘

**日本工業大学 (小川)**  
高桑 広太郎  
岡崎 昌  
今高 文  
高橋 史  
浦井 典  
安藤 登  
伊藤 聖  
田沼 惇  
土野 大  
廣皆 勇  
武藤 龍  
藤和 将

## 平成 24 年度

**信州大学 (寺内)**  
城谷 繪  
京高 奈  
野原 拓  
南勇 次

**神奈川大学 (曾我部)**  
内源 雄  
高見 真  
下岡 準  
高橋 恭  
高橋 陸

**東京理科大学 (坂牛)**  
中川 宏  
堀江 優  
小岡 太  
飯元 俊  
岡崎 悠  
加瀬 野  
中永 季  
則本 壯  
山下 佳  
山田 晃

**神戸大学 (槻橋)**  
村岡 幹  
小川 紘  
中村 秋  
阪本 昌  
猪部 開

**日本工業大学 (小川)**  
高桑 広太郎  
安藤 聖  
伊藤 賢  
木梨 登  
小田 堅  
田沼 輔  
土佐 大  
廣海 勇  
黒澤 祥  
小義 佑  
佐々木 翔  
飯嶋 平  
藍内 充  
久保 太  
西川 健  
田保 祐  
西保 介  
川博 美

平成 25 年度

信州大学  
(寺内)

山本 雄馬  
今高 奈津生  
京橋 拓生  
野原 麻由次  
南 江太  
大北 沢健  
野上 綾香  
田 将央  
志郎

神奈川大学  
(曾我部)

中村 慧睦  
望月 諭美  
伊藤 夏二  
田邊 裕太郎  
柳 健太郎

東京理科大学  
(坂牛)

程岡 鵬鵬  
崎 絢介  
金子 俊文  
中川 宏史  
中東 壮史  
本山下 佳弘  
山田 奈子  
大村 総一郎  
川谷 幸博  
菅田 由比呂  
中田 紀美  
坂浦 佳香  
宮前 淳司

神戸大学  
(槻橋)

小川 紘司  
中村 秋香  
阪本 昌則  
里中 俊裕  
猪部 俊開  
大野 晴臣  
小池 真貴  
楠目 晃大

日本工業大学  
(小川)

澤林 祥貴  
小池 登樹  
小見 佑樹  
藍場 春充  
内田 健太  
久保 田太  
小松 由樹  
坂田 健一  
高木 翼  
種光 治  
西館 直樹  
村井 春樹  
渡邊 優也

平成 26 年度

信州大学  
(寺内)

今城 美子  
谷津 生希  
高野 由次  
原 麻由馬  
南 十健  
大江 健太郎  
北沢 伸也  
樋口 徹志  
田川 楓子  
市田 麻央  
上田 亮  
大村 公史  
福嶋 奈平  
原 昂

神奈川大学  
(曾我部)

望月 諭央  
菊井 美佳  
藤前 淳司  
宮前 鵬鵬  
程 黒村  
井里 恵

東京理科大学  
(坂牛)

猪部 開臣  
大角 卓哉  
谷田 一乃  
有友 亜希  
小川 希穂  
小松 昌平

神戸大学  
(槻橋)

猪部 開臣  
大角 卓哉  
谷田 一乃  
有友 亜希  
小川 希穂  
小松 昌平

日本工業大学  
(小川)

小池 樹充  
藍場 弘健  
内田 祐介  
久保 孝洋  
岩崎 哲基  
氏家 雅花  
内田 結太  
大押 勇太  
山田 瞭  
中野 瑞貴  
初見 友香  
山崎 友恵

八潮街並みづくり 100 年運動実行委員会

実行委員会

【平成 20 年度】

会 長：鈴木 俊一  
副会長：松田 温昭  
小澤 政利  
山崎 知之

【平成 21 年度】

会 長：鈴木 俊一  
副会長：松田 温昭  
深井 政人  
山崎 章二  
山崎 健之

【平成 22 年度】

会 長：齋藤 勝温  
副会長：松田 温昭  
齋藤 順一  
小倉 章  
山崎 義和  
山崎 健之

【平成 23 年度】

会 長：齋藤 勝温  
副会長：松田 温昭  
齋藤 順一  
小倉 光雄  
山崎 義和  
山崎 健之

【平成 24 年度】

会 長：齋藤 勝温  
副会長：松田 温昭  
齋藤 順一  
小倉 光雄  
山崎 義和  
山崎 健之

【平成 25 年度】

会 長：齋藤 勝温  
副会長：齋藤 順一  
山崎 健之  
江刺 家博賢

【平成 26 年度】

会 長：齋藤 勝温  
副会長：齋藤 順一  
山崎 健之  
岡 薫博賢

顧問 八潮市長 多田 重美 (H20 - H25.8)  
八潮市長 大山 忍 (H25.9 -)

幹事会

【平成 21 年度】

幹事長：豊田 裕之  
副幹事長：渡辺 清貴  
幹事会員：水谷 勲  
北川 盛弘  
狩野 賢一  
田中 勉  
高木 哲男

【平成 22 年度】

幹事長：豊田 裕之  
副幹事長：渡辺 清貴  
幹事会員：水谷 勲  
中川 盛弘  
小林 義和  
山木 二一  
中島 陽勉  
田中 勉  
久保 芳男  
高木 哲男

【平成 23 年度】

幹事長：水谷 勲  
副幹事長：松井 博賢  
幹事会員：江刺 家原秀  
小林 義和  
山木 知二  
中島 陽一  
田中 勉  
村上 喜一郎  
高木 哲男

【平成 24 年度】

幹事長：水谷 勲  
副幹事長：松井 博賢  
幹事会員：江刺 家原秀  
小林 義和  
山木 知二  
中島 陽一  
峯岸 真一  
浅古 哲  
村上 誠  
會田 喜一郎

部会

【平成 20 年度】

部会長：稲垣 公之  
部会長：豊田 裕之  
部会長：柳田 昭  
部会長：平岩 征夫  
部会長：大本 沼成  
部会長：河原 和  
部会長：古庄 美行

【平成 21 年度】

部会長：稲垣 公之  
部会長：浅古 哲男  
部会長：江刺 家原秀  
部会長：近藤 昭彦  
部会長：大澤 孝男  
部会長：本島 良成  
部会長：古内 友美  
部会長：柳町 元章  
部会長：柳町 光栄

【平成 22 年度】

部会長：稲垣 公之  
部会長：浅古 哲男  
部会長：近藤 昭彦  
部会長：大野 孝男  
部会長：野崎 省三  
部会長：島村 友美  
部会長：内海 美行  
部会長：久保田 光香

事務局 八潮市 都市デザイン課 都市デザイン係

# YASHIO BEST 八潮街並みづくり 100 年運動 2008 - 2014

平成 27 年 3 月発行

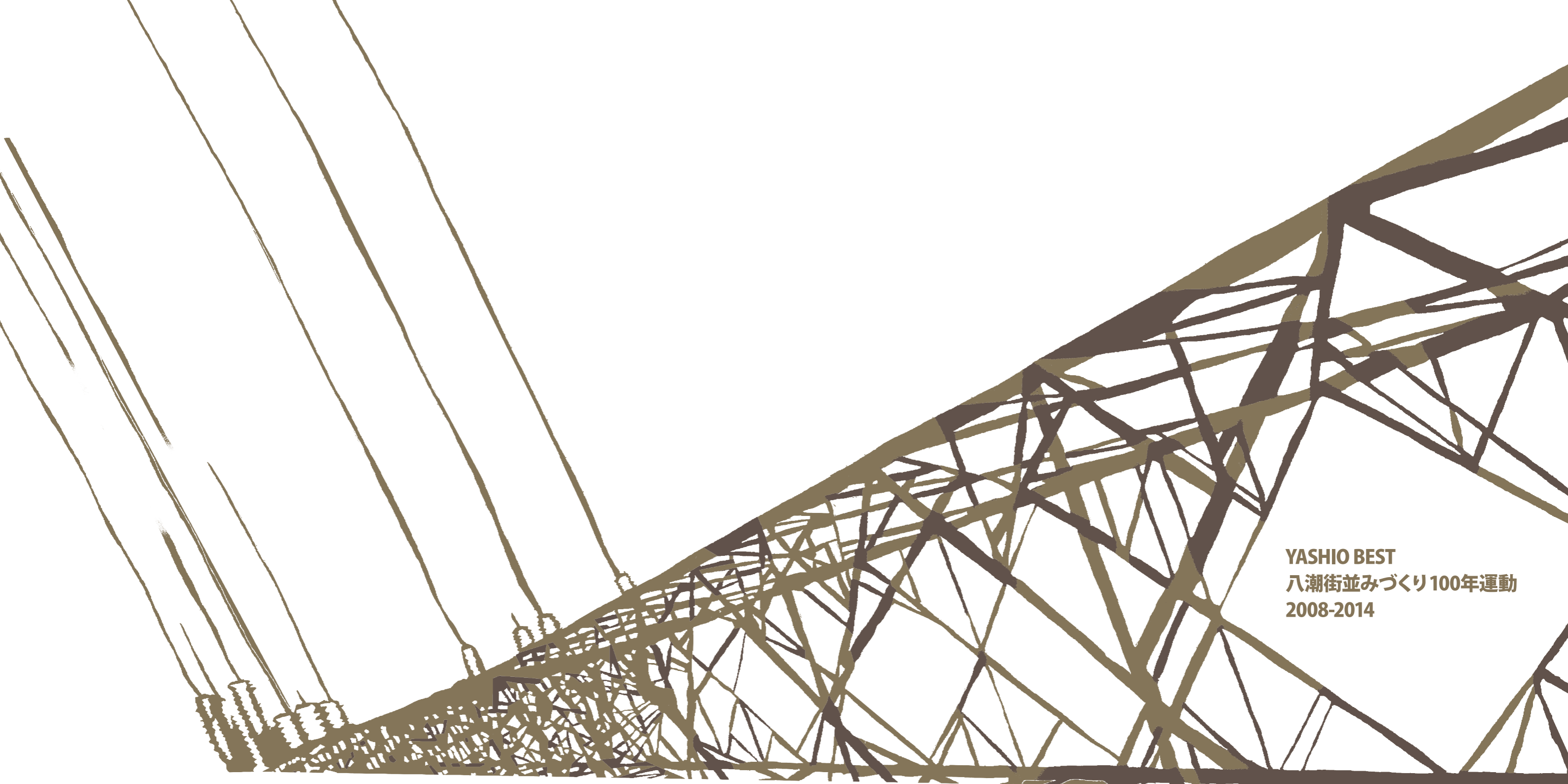
---

**製作・編集** 神奈川大学 曾我部研究室  
神戸大学 槻橋研究室  
信州大学 寺内研究室  
東京理科大学 坂牛研究室  
日本工業大学 小川研究室

**監修** 小川 次郎 (日本工業大学教授)

**編集協力** 本田 世志郎 (信州大学)  
村田 真里恵 (東京理科大学)

**発行** 八潮街並みづくり 100 年運動実行委員会



**YASHIO BEST**  
**八潮街並みづくり100年運動**  
**2008-2014**